

人口減少下、地方における新たな観光交通機能とコンサルタントの役割

高野 伸栄

北海道大学 公共政策大学院 教授



1 人口減少下の地域戦略

地方中小都市のみならず日本の総人口が減少をむかえる中、総務省は、地域に定住する人の増加を図る努力に加えて、観光に来た「交流人口」さらには、地域と多様な形で関わる者である「関係人口」にも着目し、地域外からの交流の入り口を増やすことが必要だと提言している。図1はこれらを模試的に表したものである。本稿においては、インバウンドを含む観光で訪れた交流人を関係人に、さらには定住人に少しでも近づける方策について考えてみたい。

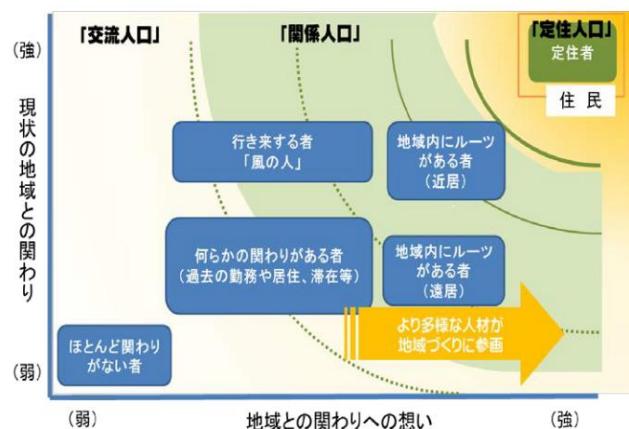


図1 関係人口のイメージ

出典：これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会報告書概要版、総務省、H30.1

2 訪問者に対する最適時空間デザイン

インバウンドや、本州から北海道に訪れる従来型の観光は、旅行会社が企画する「○○を巡る観光パック旅行」が主で、足、宿、食べ物がセットになっていた。しかし、今や、インターネットを通じて、アニメや映画の聖地巡礼のための訪問や、あのネットで見た風景を見てみたい、北海道のワインを飲みたい・・・などのように、観光エリアを周遊するというより、自分の興味があるスポット訪問やアクティビティに興ずるという単一目的型の観光行動が多くなっている。従来の観光交通計画は「目的地間を効率的・スムースに移動してもらう」ことを実現すれば良かったが、このような単一目的型の観光客は、目的以外、どこに何があるか、それは魅力的か、今はいいシーズンか、今日はいいか、今いいタイミングか、いくらかかるのか?などの地域に関する情報はほとんど持ち合わせていない。しかし、そこを訪れた観光客は滞在する時間の中で、スポット訪問以外の時間を過ごし、食べ、飲み、遊び、観て、体験することを求めている。

地域に関係のない交流人に、少しでもその地に愛着をもってもらい、関係人、定住人に近づいてもらうためには、彼ら好み、グループ形態（個人・家族・友人）、費用制約などに対して最適な時空間デザインを行って、そこで活動をサポートしていくことが求められる。それは、季節（春夏秋冬）・時（朝昼夜）・天候（晴曇雨雪）・費用・時間等を考慮して、地域資源が訪問者にとって最も魅力的となるスポット群の時空間デザインをすることといえよう。その役割こそがインターネット社会に求められる従来の概念を超える観光交通の役割と考える。

3 時空間デザインを担う仕組み

スポットへの訪問者が、自分ぴったりにデザインされたアクティビティを行うことによって、訪問者が地域の魅力に目覚め、リピーターとなり、生活者への志向、関係人となり、究極的には移住ということも考えられないことではない。また、本人だけではなく、インターネットにより、他者への情報拡散により、多くの人々を巻き込むことになるから、これは地域が人口減少社会に立ち向かう重要な戦略となり得る。

では、これらのこと誰がどのように担えるのか？これまでも、民宿のおじさんがいい所を案内してくれて大満足で、毎年通うようになるとか、船頭さんがいつも大漁の釣り場案内してくれる等の例があるが、インターネット社会において、この機能を前面に押し出し、多くの顧客を勝ち得ているのが、Air B&Bである。ご存じの方も多いと思うが、Air B&Bとは、ホテルや、自宅などを宿泊施設として提供するシステムで、宿泊施設を提供するホストがゲストから、様々な観点から評価を受け、ネット上で公開し、それを基にゲストは好みの宿泊施設を選ぶ。ホストは宿泊施設の紹介に加えて、種々の地域資源と訪問者の魅力的なアクティビティを紹介し、さらに実際の様々なサポートを行うことで、人気と信頼を勝ち得て、多くの顧客を得ていく。実際に、宿代は多少高くて、訪問客に最適なアクティビティを提案し、そのサポートを行うことで、多くの顧客を得て、経済的にも十分な自立が可能という例も多いと聞く。

4 新たな交通機能に関するコンサルタントの役割

地域資源が訪問者にとって最も魅力的となるよう時空間デザインを行うことが地域観光政策における新たな交通の役割であると述べた。

そして、AirB&Bのスーパーホストがインターネットを活用して、その役割を担っていることを紹介した。すると、読者は本稿の話題をコンサルタントの業務とは何の関わりのないこととお考えかもしれない。

筆者は、「インフラが一定水準充足し、生産システムの志向が大量・効率的生

これまでのインフラ整備の進め方

国→都道府県→市町村

構造基準による規格化
予算化・補助金
五ヵ年計画

整備地域：建設業者・住民
効率的インフラ整備

これから

国・都道府県・市町村

インフラ整備計画
包括的事業費

整備地域：建設業者・
NPO・住民
地域にとって必要な
インフラ整備

図2 これからのインフラ整備の方向

産（規格化）から、多様なニーズに対応したもの（非規格化・情報化・多様な付加価値）へと変化すること」を「ポストコンストラクション」と名付けて、建設生産システムの有り様についてこれまで述べてきた。上図左は、経済成長期に効率的なインフラの大量生産が求められる時代の建設生産の流れを示したものである。行政が、構造基準をつくり、規格化を行い、計画的予算制度とともに、効率的にインフラ整備を行っていくもので、上から下への流れとなる。一方、右はポストコンストラクション時代を示したもので、地域にとって必要なものは、国や都道府県では定められず、地域がどのようなものが必要なのかをデザインして、整備を進め、国はより包括的な財源制度の下で、それをサポートする。地方創生に見られる地域の戦略づくりがまさにこれに該当する。

本稿で取り上げた「地域における時空間デザイン」は地域にとって必要な新たなインフラ整備の新たな提言と位置付けられる。この新たな交通機能はAirB&Bホストの専売特許ではなく、例えば、

「道の駅の情報提供機能」を仲立ちとして、行政、公共事業としても十分取組みが可能なものと思う。ならばこそ、コンサルタントは左の流れのように基準に基づく調査、設計に終始するものではなく、行政がまだ、具体的に構想できていないこの新たな交通機能について、他の関連業界とコラボして、いち早く企画提案を行い、積極的に下から上の流れの原動力になってくれることを強く願うのである。